



HATI-HATI はインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

## 「愛媛県愛南町へ」

3月19日～21日まで愛媛県愛南町へ視察に行ってきました。2月23日に厚生労働省地域共生シンポジウムと一緒に登壇した長野先生の地域共生を学ばせていただくためです。

愛南町、とても豊かな町でした。食が豊か、地産地消は当たり前。海、畑、山で採れたものをいただく。お野菜もお魚も安い、そして新鮮。

でも町は海そして山に囲まれている。山の田畑は、だんだん。石垣で作られている。この土地に住む人たちが山を切り拓き、野菜も米も作れる田畑を作って来た。山からの湧き水を大切に生きてきた。厳しい環境に適応してきた町だと感じました。



湧き水をつわぶきで作ったコップでいただく。とても甘く柔かいお水でした

長野先生の取り組みはとても広く、地域の精神科病院の病床をなくして診療所に変え、入院していた人たちをグループホームや地域に帰す取り組みを続けていらっしゃいます。障がいや認知症の方々を地域で共に暮らすためには、地域の理解がなければいけないと、精力的に講演を続けています。そういう地道な活動が地域の理解を深め、共生社会の実現に向かっているのだと思いました。

特に関心したのが、雇用についての取り組みです。地域で生活できるためのお金を自らの労働で

手に入れるために、様々な取り組みをされています。

## 「多文化共生社会の土壌作り」

海外から来る若者たちは、自分たちが育ってきた環境を離れ日本に来ます。自国と違う生活環境や文化の違いに最初は戸惑うことも多いと思います。

日本の地域社会に適応するために地域の人たちの協力を得ながら彼らとの共生社会を作っていくことが、現在の当法人の使命と思っています。

田畑はすぐに作れません。雑草を抜き、耕し、肥を入れまた耕し、耕し、耕し。時間と労力をかけて作られていく。ひとつひとつの取り組みが多文化共生という土壌を作るのではないのでしょうか。一足飛びではなく、三歩進んで二歩下がる気持ちで向き合っていきます。

## 「多文化ふれあい農園始動」

地域に住む外国の方たちと畑づくりを開始しました。この場でまた楽しい繋がりが広がっていきます。作物を作る事が目的ではありません。一緒に作業する事でゆるやかなつながりを作る事が目的です。ゆるやかな繋がりは、地域のセーフティネットになります。



インドネシアから来た実習生さんと地域のこどもたち。もう1年半くらいのつながりです。

代表 新美純子

僕もベトナムに同じくらい  
の子どもがいます。まちを  
案内してくれてうれしい。  
日本在住のベトナムの B さ  
んと子バディちゃん

[illegible]

本的生活をルーツ、文化を教え、地域住民は外国人の文化を教わる者です。つまりバザシスチムは一方通行なワザビではなく、双方向、多方向的の関係になるのです。

「地域には日本人を神典くしたいという思想でいる外国人住民が大勢います。一方で外国人を奴隷にかけている地域住民も一定数います。しかし

また5月からは新たに新事務所で活動を開始します。

あなたも外国人の仲間・理解によって多文化共生社会実現へ！



TEL 0566-57-7700 FAX 0566-87-0552